

「卵生んでない」て言うた人やないけどね。私2階にいて会わなんだんや。今でも卵の恨みがあるわけ。卵の1個やけどね（笑）

### 配給制度に闇市

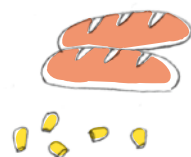
あの時分、高校卒業して大学行くちゅう人らて、桐陰でも1クラスしかなかった。他みな働く人ばっかしやった。私は和商やったけども、和商でも大学コースてひとクラスだけで、あとみなもう、高校卒業したらほとんどみな勤めにいたけどね。

長男ちゅうのは後継がなあかんゆうようなもんで、私もすぐ商売したけど、それから65年、ずーっと今まで商売一本でやってきました。うちらは海産物商。ちりめんとか鮭とかそういうもんを売って、海産物、海のもんを。生のお魚じゃないです。

当時は統制とかそなん、配給制度があったから、店の前では絶対売れないんですよ。闇で買うて来たら警察で引っかかってブタ箱へ入れられたりねえ。闇で買うてきてても和歌山市駅へ着いたら警察がいてて捕まるから、お米とかみな、杉ノ馬場あたりでばーって電車からほるんですよ。手前で受けとる人がおるんです。駅まで持っていたら捕まるから。

あの時分には米屋で配給やってました。ほいて行ったらおいもさんばっかしやったね。お米じゃなくって。なんばのスイートコーンばっかしの日もありました。アメリカから来るよってスイートコーンら固いカチカチのスイートコーンでしょう。そなん家で食べられへん。中田のパン屋へ持っていたら、パンに替えてくれる。メリケン粉がないから、スイートコーンをパンみたいになにして。メリケン粉のパンじゃないんですよ。とうもろこしを粉にしてこしらえたパンと交換してくれた。そなん食べました。

お米でも、一升瓶入れてね、こうつくんですよ。つかんことには玄米ですよって、そこで白米にせなあかん、こう一升瓶入れてつかされた。



久次さんは本当に細かいところまで記憶されてました。戦中戦後を知らない私たちには、とてつもなく貴重な体験談ではないでしょうか。心から感謝いたします。このあとも、奥様との馴れ初めなどお聞きしたのですが、誌面の都合上掲載はここまででご容赦ください。

ぼうもり  
坊守さんの

日々のあわ

石橋と葡萄



何か事を起こそうというとき、石橋を叩いて渡る人と、とりあえず一步踏み出して渡ってみる人、あなたはどちらでしょうか。

私は前者。石橋をくまなく叩いて調べまわり、できる限り不安要素を取り除いて、「これならいける」と安心できてやっと一步踏み出せるタイプ。たまに、石橋を叩いているうちにくじけたり面倒になってしまったり結局渡れなかったり、必要以上に叩きすぎて石橋を壊してしまったりもするので、不安が強く慎重すぎて行動力が足りない…と自省することもしばしばです。

先日の朝食時、「庭の柵に山葡萄をつたわせたいと思って買って来た」と住職。（虫や病気はつかない？）（鳥が来て糞をたくさん落としていくのでは？）と心配がむくむく頭をもたげ始めたのでまずは「ふ～ん…」とだけ答えた私に構わず、食後にその葡萄を植えにいこうとしていたので、つい「ちょっと」。

あまり深く悩まずに一步を踏み出せる、身軽で行動力のある人に憧れたりもしますが、それは、行く先にどのようなことが待ち受けていても「It's all right」と軽やかに受け流せる心のつよさあってこそだと思うので、私のように「ほらこんなことになった…ちゃんと調べておけばよかった…後悔…」といちいち受け止めすぎてしまう人は、やっぱりある程度自分が納得できるところまでは石橋を叩いておきたいとも思うのです。

性格や気質、物事の考え方や行動パターンが異なる人どうしが生活や仕事を共同で営んでいくことは容易くありません。でも、考えや意見を擦り合わせて方向を決めていくしかないのですね。「めんどいやっちゃんあ」と思われながらも…。